岩見沢東高等学校　男子テニス部通信　　２０１３．３．２９．

Ganto Tennis

第３２号

文責：佐々木雄介

code（名）法典。規則。規範。　／　conduct（名）（特に道徳上の）行い。行為。品行。

Code of Conduct

ルールブックには、３０条の「Rule of Tennis（テニス規則）」の他に、テニスプレーヤーの“行動規範”として１９項目の「コード・オブ・コンダクト」が示され、コーチングや遅延行為など、ルールでは裁けない悪質な行為が戒められている。

例えば、パルチザン・クラウド（Partisan　Crowd）の条項には「チーム戦において相手チームのプレーを妨害するような応援をしてはならない」ことが規定されている。そして今回話題にしたいのは、“アビューズ abuse”についてである。

辞書を引くと“abuse”には「①虐待。暴行。②悪用。乱用。③悪口。ののしり」と書かれている。テニスの「コード・オブ・コンダクト」に該当する訳語は②と③。そして、この“abuse”に関わる条項は次の４つである。

10）ボールの乱用（Abuse of balls）

11）ラケットや用具の乱用（Abuse of Rackets and Equipment）

12）言葉による侮辱（Verbal Abuse）

13）身体に対する危害（Physical Abuse）

空知支部の大会で、 12）言葉による侮辱、13）身体に対する危害を目にすることは皆無である。しかし残念なことだが、10）ボールの乱用、11）ラケットや用具の乱用については、稀（まれ）に目にすることがある。もし「コード・オブ・コンダクト」に違反する行為があった場合、「コード・バイオレーション code　violation」が宣告され、ポイントペナルティ制度が適用される。１回目は警告。２回目は１ポイントを失い、３回目以降はその都度１ゲームを失うのである。昨年は、ボールを観客席まで打ち込んだ選手がいたが、怒りを通り越して、呆れるほかなかった。この事例については、もしもそのボールが観客に当たりケガでもあった場合は、「重大で悪質な違反」と判断され、一発で失格になる。

岩東テニス部はどうだろう。ミスをした自分に対する怒りにまかせてラケットを地面にたたきつけたり、ネットを叩いたりの行為は（校内の試合で、以前、厳しく叱ったことがあったが）絶対にないと信じたい。ただし、ミスの後に、がっくりしてラケットを落とす光景を時々目にする。「怒りをこめて」ではない以上 Abuse of Racket は適用されないが、あまりにもみっともない。第一、武士にとっては刀とも言えるラケットを手から落とすなど言語道断、“テニス道”の冒涜と言うほかない。厳に慎め。

ひとつ言い忘れていたが、ミスをした自分に対して「バカ」「クソ！」などと独り言を言うことも 12）言葉による侮辱に該当する。誰に対してであろうと、テニスプレーヤーは、コート上で汚い言葉を使ってはならないのだ。ちなみに、国際審判員は、世界中の言語の「バカ」とか「クソ！」とか「×××」とか「△△△」にあたる単語（隠語）を知り尽くしており、それを耳にした瞬間に Ccode violation ！を宣告する。